～施設柑橘を中心とした高収益農業の実現～

丸井　幸造さん（大洲市（旧長浜町））

愛媛県農業指導士、大洲市農業委員　1959 年生まれ

☆経営概況☆

大洲市長浜町今坊地区で、施設柑橘 49a（紅まどんな 28a、甘平 6a、せとか 6a、デコポン 9a）を経営の柱に、施設きゅうり 4a、露地温州みかん 8a、露地中晩柑 19a、キウイフルーツ 10a など合計 115a を耕作しています。

また、地域農業の維持・発展や長浜地区の活性化を図るため、農業委員や農業指導士、中山間直払いの集落協定代表のほか、自治会や公民館、地域づくりの会など、いろいろな組織で役職を引き受け、日々奔走しています。

☆ここがポイント☆

■労力や作業性を考慮した施設中心の経営

耕作面積としては地域でも中規模ですが、特徴的なことは、施設柑橘が 49a、きゅうりを含めると施設が 53a と多く、施設中心の経営となっていることです。

これは、主な労働力が自分と高齢の父の２名で限られていることから、収穫等に係る労力の分散や日々の作業性を考慮し見直してきた結果であり、これによって柑橘＋野菜で農産物の周年出荷体系を構築することにも繋がっています。

また、施設整備については、中古ハウスの移設や資材の再利用により、経費節減に努めています。

■将来を見据えた新技術・新品種の導入

JA の営農指導員として地域の農業振興に携わった後、父の高齢化と自分の“ものづくり”に対する意欲の高まり、さらに家族の時間を増やしたいとの想いが重なったことを契機に退職し、その後は専業農家として自らの経営改善に取り組んできました。

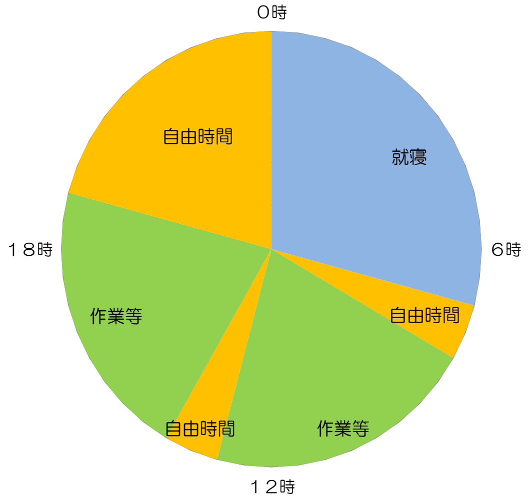
柑橘栽培で重視していることは、有機物による土づくりで、堆肥投入のほかに剪定枝をチッパーで粉砕して園地に還元しています。

また、地域特性や気候変動等を踏まえ、常に新技術・新品種の導入を検討し、有益と判断したら素早く実践に移しています。近々、全ての施設柑橘へのマルドリ方式（マルチ＋ドリップ潅水）の導入、グレープフルーツの新規導入等を予定しています。

甘平の袋掛け作業

紅まどんなの結実状況

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

限られた労働力で生産性を上げるため、普段から段取り・優先順位を決めて作業を行うよう意識しています。

また、集中して効率よく作業をする為にも、疲れた時は一旦休んでリフレッシュしてから作業に取り掛かるようにしています。

具体的には、体調管理に留意しながら、週１日～1 日半は極力休日を設けるようにしており、趣味の映画を見に出かけたり、スポーツ観戦をしたりしています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】						
作業	作業	作業	作業	作業	作業	休日
【普通期】						
栽培管理	栽培管理	栽培管理	栽培管理	栽培管理	休日	休日

自宅周辺から見た穏やかな瀬戸内海

長男の俊太郎さんと

☆これからの夢や目指すもの☆

■経営移譲に向けた準備と産地の活性化の取組み

昨春、長男が就農しましたが、現在は別経営としています。しばらくは長男の経営安定を図るため、生産基盤の整備や技術の伝承を進めつつ、お互いの経営を頑張って、頃合いを見て経営移譲する計画です。

また､かつて産地の活性化と個人の資質向上のため柑橘栽培者有志で｢長浜みかん塾｣を組織していましたが、現在活動休止中であるため、人・活動内容を見直し、もう一度パワーアップした「㈫長浜みかん塾」を立ち上げようと計画中です。

☆メッセージ☆

■農業で充実した生活を実現してみませんか

農村は、高齢化や後継者不足と言われて久しく、地域農業の受け皿作りが急務となっており、今後は第三者への経営承継や集落・地域単位での農業経営など、既成の枠にとらわれない新たな取組みが必要な段階を迎えると考えています。

そのような中でも、夢を持ちチャレンジ精神溢れる皆さんを受け入れ、応援できる素地のある地域だと思います。

農業はしっかりとした経営理念のもとで目標に向かって着実に取り組めば､その努力が成果に直結するので、やりがいや達成感を得ることができる素晴らしい仕事です。是非、農業・農村で充実した生活を目指してみませんか。